戸田市　事務事業評価　≪事後評価シート≫

事務事業名	40486　緑化事務費													
担当組織	環境経済部				みどり公園課							担当	みどり環境担当	
組織コード	H30	15	06	00	会計･款･項･目･大事業･中事業	H30	01	08	04	07	02	01	記入日	平成30年06月11日
	H29	15	06	00		H29	01	08	04	07	02	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ			実施計画候補
基本目標	04	緑と潤いのあるまち	○ 対象
分野	01	緑地・緑化	● 対象外
施策	38	潤いのある緑地空間の創造	
事業期間			
根拠法令 通達等		関連計画 施政方針	
事業区分	○ 法定受託事務　○ 自治事務のうち義務的なもの　● 自治事務のうち任意のもの		
対象			
事業目的	予算管理シート		
事業内容	予算管理シート		
実施主体	□市による単独直営　□委託　（□3ｾｸ･財団　□企業　□市民･NPO）　□協働･協力（　　）		

2. 実施結果

事業の予算・実績			平成２９年度 執行額（千円）	平成３０年度 予算額（千円）	平成３１年度 計画額（千円）	平成３２年度 計画額（千円）	平成３３年度 計画額（千円）
事業内容							
事業費			22,474	22,947	22,947	22,947	22,947
財源内訳		国庫支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		起債	0	0	0	0	0
		その他	0	3	3	3	3
		一般財源	22,474	22,944	22,944	22,944	22,944
人件費			2,965.71	4,552.02	4,552.02	4,552.02	4,552.02
投入人員		常勤職員	0.43 人	0.66 人	0.66 人	0.66 人	0.66 人
		非常勤職員	0.02 人	0.07 人	0.07 人	0.07 人	0.07 人
事業費＋人件費			25,440	27,499	27,499	27,499	27,499

目標達成状況	指標名	単位	説明・算定式	Ｈ２８目標 Ｈ２８実績	Ｈ２９目標 Ｈ２９実績	Ｈ３０目標 Ｈ３０実績
活動①						
						－
活動②						
						－
成果①						
						－
成果②						
						－

目標達成状況の分析	－：未設定 ＜判断理由＞

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	－：未設定
	－	－	－	＜判断理由＞
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	－：未設定
	－	－	－	＜判断理由＞
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	－：未設定
	－	－	－	＜判断理由＞
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	－：未設定
	－	－	－	＜判断理由＞

4. 平成２９年度中に実施した見直し内容

見直し内容	
見直しの効果	

5. 今後の方針

事業の方向性	○１現状で継続　○２拡大して継続　○３縮小して継続　○４他事業と統合　○５休止 ○６その他見直し　○平成３１年度で終了　○平成３０年度で終了　○平成２９年度で終了 ＜判断理由＞
今後の取組方針	

戸田市　事務事業評価　≪事後評価シート≫

事務事業名	7585　緑化推進事業													
担当組織	環境経済部				みどり公園課							担当	みどり環境担当	
組織コード	H30	15	06	00	会計･款･項･目･大事業･中事業	H30	01	08	04	07	02	02	記入日	平成30年05月22日
	H29	15	06	00		H29	01	08	04	07	02	02		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ			実施計画候補
基本目標	04	緑と潤いのあるまち	○ 対象
分野	01	緑地・緑化	● 対象外
施策	38	潤いのある緑地空間の創造	

事業期間	昭和５４年度 ～ 平成３２年度		
根拠法令 通達等	戸田市緑化推進条例、緑化推進に関する規則 戸田市緑化推進補助金交付規程 戸田市建築物屋上等緑化奨励補助金交付要綱 戸田市生け垣等設置奨励補助金交付要綱	関連計画 施政方針	戸田市緑の基本計画
事業区分	○ 法定受託事務　○ 自治事務のうち義務的なもの　● 自治事務のうち任意のもの		
対象	戸田市で保存樹木を所有している者、生け垣・屋上等を設置する者。		
事業目的	良好な自然と生活環境を確保するため、樹木の保全とあわせて緑化を推進し、緑あふれる住み良いまちづくりを図る。		
事業内容	苗木の配布や緑化に関する補助金の交付を実施するほか、緑化を推進する計画の策定や遂行を図る。		
実施主体	■市による単独直営　□委託　（□3ｾｸ･財団　□企業　□市民･NPO）　□協働･協力（　　）		

2. 実施結果

事業の予算・実績			平成２９年度 執行額（千円）	平成３０年度 予算額（千円）	平成３１年度 計画額（千円）	平成３２年度 計画額（千円）	平成３３年度 計画額（千円）
	事業内容		緑化補助金の交付、苗木の無料配布	緑化補助金の交付、苗木の無料配布	緑化補助金の交付、苗木の無料配布	緑化補助金の交付、苗木の無料配布	緑化補助金の交付、苗木の無料配布
	事業費		5,353	7,898	7,898	7,898	7,898
	財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0
		県支出金	0	0	0	0	0
		起債	0	0	0	0	0
		その他	0	330	330	330	330
		一般財源	5,353	7,568	7,568	7,568	7,568
	人件費		10,759.32	6,828.03	6,828.03	6,828.03	6,828.03
	投入人員	常勤職員	1.56 人	0.99 人	0.99 人	0.99 人	0.99 人
		非常勤職員	0.05 人	0.34 人	0.34 人	0.34 人	0.37 人
	事業費＋人件費		16,112	14,726	14,726	14,726	14,726

目標達成状況	指標名	単位	説明・算定式	Ｈ２８目標 Ｈ２８実績	Ｈ２９目標 Ｈ２９実績	Ｈ３０目標 Ｈ３０実績
活動①	保存樹木補助金交付件数	件	指定された保存樹木に対して交付した補助件数	156	152	148
				152	148	－
活動②	補助金制度PR紙配布回数	回	町会回覧・広報掲載回数	2	2	1
				2	1	－
成果①	屋上緑化等補助金交付件数	件	屋上緑化等の補助件数	2	2	1
				1	0	－
成果②	生け垣等補助金交付件数	件	生け垣等の補助件数	4	4	3
				6	3	－

目標達成状況の分析	
	Ｂ：活動・成果のいずれかを達成した。
	＜判断理由＞ PR用チラシの町会回覧やホームページに掲載をすることにより、PRを行った。保存樹木は解除件数が多かったが、新規件数も多く、若干の減に留まった。とだグリーンウェーブの植樹数が大幅に増えたのは広報等による周知が寄与したと考える。

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：施策の目標達成に貢献している。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 市街化が進み、大きな緑地を確保しにくい本市にあっては、残された樹木や生垣、樹林等を保存し、緑の減少を防ぐことや緑化の普及啓発を図りつつ、新たな緑を増やす取り組みは市内緑化に貢献できているものと考える。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：経費は適正な範囲である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 屋上緑化、生垣設置には、多額の費用がかかるため、緑化のための補助金は妥当な経費と考える。保存樹木に指定されているものには補助金は高木が多く、管理には多額の費用がかかるため、最低限の支援として適正な補助額と考える。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：事業手法は適正な内容である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 緑地の確保は、行政のみならず市民と協力して実施していくべきものであるが、個人による緑地の管理が経済面で大きな負担となっている。そのため、補助金を活用して市民の負担軽減を図ることで緑化を推進し、緑を保全することは適正な事業手法と考える。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：受益・負担は適正な範囲である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 補助額は樹木本数や面積等に応じているほか、保全される緑や新たに設置されるみどりは広く市民の利益に貢献するもので、環境の向上につながることから、公平性は保たれているものと考える。

4. 平成２９年度中に実施した見直し内容

見直し内容	保存樹木補助金は戸田市緑化推進補助金交付規程により交付しているが、本来補助金は規程によるべきではないため、戸田市緑化推進補助金交付規程を廃止し、補助金に関する規程を戸田市緑化推進に関する規則に組み込んだ。また保存樹木の交付に関する一連の手続きが規定されている戸田市緑化推進補助金交付規程を運用していく中で規定された手続き方法と実務が齟齬が生じていることから、是正を行った。
見直しの効果	保存樹木補助金制度は事業の性質上、実績報告書の提出が困難であり、一部手続内容を引用している「戸田市補助金等交付規則」の規程により難いものであることから、一連の手続きを戸田市緑化推進に関する規則で完結させることができるようになった。

5. 今後の方針

事業の方向性	● １現状で継続　○ ２拡大して継続　○ ３縮小して継続　○ ４他事業と統合　○ ５休止 ○ ６その他見直し　○ 平成３１年度で終了 ○ 平成３０年度で終了 ○ 平成２９年度で終了 ＜判断理由＞ 指定保存樹木等の保全には、市民の理解が不可欠であることから、緑の大切さについて、継続した普及啓発を実施していく必要があると考える。 屋上の緑化、生け垣補助の制度を広く市民が知ることで、補助制度の活用も普及すれば、今後も継続してより多くの緑を市内に残し、新しい緑を創出することが可能と考える。
今後の取組方針	樹木の所有者に対し、指定樹木に該当するようなものがある場合、積極的に新たな指定の手続きをしてもらえるよう、促すことも必要と考える。 屋上緑化、生け垣補助については、手続きや利用の方法など、より分かりやすく、使いやすいものとなるよう心がけながら制度の運用を図っていく。

戸田市　事務事業評価　≪事後評価シート≫

事務事業名	27263　水と緑のネットワーク推進事業													
担当組織	環境経済部				みどり公園課							担当	みどり環境担当	
組織コード	H30	15	06	00	会計･款･項･目･大事業･中事業	H30	01	08	04	07	02	03	記入日	平成30年05月22日
	H29	15	06	00		H29	01	08	04	07	02	03		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ			実施計画候補
基本目標	04	緑と潤いのあるまち	● 対象
分野	01	緑地・緑化	○ 対象外
施策	38	潤いのある緑地空間の創造	

事業期間	平成１９年度 ～ 平成３２年度		
根拠法令 通達等	環境共生・創造マスタープラン	関連計画 施政方針	戸田市環境基本計画、戸田市緑の基本計画、水と緑のネットワーク形成プロジェクト（戸田市地区）基本構想、戸田ヶ原自然再生事業全体構想
事業区分	○ 法定受託事務　○ 自治事務のうち義務的なもの　● 自治事務のうち任意のもの		
対象	市民、事業者		
事業目的	自然と共生するまちづくりを市民など多様な主体とともに推進することを目的とする。		
事業内容	水と緑のネットワーク形成プロジェクトの推進のため「戸田ヶ原」の自然再生等事業等を展開する。 また、行動計画に基づく関連各課との調整や推進、国や県との連絡調整を行いながら水と緑のネットワーク形成プロジェクトを推進する。		
実施主体	■市による単独直営　■委託　（■3ｾｸ･財団　□企業　□市民･NPO）　■協働･協力（　企業市民NPO　）		

2. 実施結果

事業の予算・実績			平成２９年度 執行額（千円）	平成３０年度 予算額（千円）	平成３１年度 計画額（千円）	平成３２年度 計画額（千円）	平成３３年度 計画額（千円）
事業内容			戸田ヶ原・水と緑（緑の外環道事業）	戸田ヶ原・水と緑（街路樹エコアップ事業）	戸田ヶ原・水と緑（街路樹エコアップ事業）	戸田ヶ原・水と緑（街路樹エコアップ事業）	戸田ヶ原・水と緑（街路樹エコアップ事業）
事業費			26,190	8,567	8,500	8,500	8,500
財源内訳	国庫支出金		0	0	0	0	0
	県支出金		0	0	0	0	0
	起債		0	0	0	0	0
	その他		0	2	2	2	2
	一般財源		26,190	8,565	8,498	8,498	8,498
人件費			8,828.16	7,517.73	7,517.73	7,517.73	7,517.73
投入人員	常勤職員		1.28 人	1.09 人	1.09 人	1.09 人	1.09 人
	非常勤職員		0 人	0.09 人	0.09 人	0.09 人	0.09 人
事業費＋人件費			35,018	16,085	16,018	16,018	16,018

目標達成状況	指標名	単位	説明・算定式	Ｈ２８目標 Ｈ２８実績	Ｈ２９目標 Ｈ２９実績	Ｈ３０目標 Ｈ３０実績
活動①	業務委託契約件数	件	業務委託の契約件数	1	1	1
				1	1	－
活動②	定例会開催日数	日	戸田ヶ原自然再生連絡会議の開催日数	2	2	2
				2	2	－
成果①	業務委託執行率	%	業務委託の契約執行率	100	100	100
				100	100	－
成果②	戸田ヶ原イベント開催参加者人数	人	市主催イベント全て(花見イベ等)管理作業除く	700	700	700
				612	845	－

目標達成状況の分析	
	Ａ：活動・成果ともに達成した。
	＜判断理由＞ 業務委託における指標目標について達成できた。戸田ヶ原イベント開催参加者数の増は前年度荒天で開始直後中止となった「さくらそう祭り」が晴天であったため７９９名の来場があった。戸田ヶ原自然再生連絡会議は２回目を１０周年記念報告会とし、これまでのあゆみ、団体の発表、これからの１０年に向けてという題目で開催し、６３名の参加があった。今後、更に認知度を高め、市民の誇りとなる取り組みとするため、参加者に積極的に働きかけ、より主体的に参画してもらえるよう努めた

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ａ：施策の目標達成に大いに貢献している。
	Ａ	Ａ	Ａ	＜判断理由＞ 点在する水辺や緑地をネットワーク化することで、市内に生き物を呼び込むことが可能となるもので国や県等とも連携しながら、自然と共生するまちを実現する。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：経費は適正な範囲である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 既存事業を活用したり、市民や他の主体と協力することで、限られた予算の範囲内で成果を出しており、適正と考える。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ａ：事業手法は工夫され、非常に効率的・効果的である。
	Ａ	Ａ	Ａ	＜判断理由＞ 水と緑のネットワーク形成プロジェクト（戸田市地区）行動計画をもとに、市民や事業者の協力を得ながら進めており、事業手法は効率的、効果的と考える。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ａ：受益・負担は十分な検討、見直しを実施している。
	Ｂ	Ａ	Ａ	＜判断理由＞ 自然と共生するまちづくりは、広く市民の利益に貢献するものであり、施策の内容については公平性が保たれていると考える。

4. 平成２９年度中に実施した見直し内容

見直し内容	昨年第１期を実施した外環道の壁面緑化を行う「緑の外環道事業」の第２期事業を実施した。今後も、維持管理が必要なため、除草作業等実施していく。
見直しの効果	「緑の外環道事業」については、第２期分を実施したことにより、ネットワーク化が図られた。

5. 今後の方針

事業の方向性	● １現状で継続　○ ２拡大して継続　○ ３縮小して継続　○ ４他事業と統合　○ ５休止 ○ ６その他見直し　○ 平成３１年度で終了 ○ 平成３０年度で終了 ○ 平成２９年度で終了 ＜判断理由＞ 戸田ヶ原自然再生事業は市民や企業と協働して管理を行う等、着実に進んでいる。市街地での水と緑のネットワーク形成については、「緑の外環道事業」第２期分が終了し、引き続き維持管理を進めていく。今後も事業の目的達成のため、国、県と調整、協力等連携して事業を継続する。
今後の取組方針	今後は、戸田ヶ原自然再生事業で培った取り組みを活かし、街中で水と緑のネットワーク化を図る必要があることから関係機関と連携し、水と緑のネットワークに資する取組が行えるよう啓発、協力し、事業を推進していきたい。

戸田市　事務事業評価　≪事後評価シート≫

事務事業名	21219　街路樹等維持管理事業													
担当組織	環境経済部				みどり公園課							担当	公園担当	
組織コード	H30	15	06	00	会計･款･項･目･大事業･中事業	H30	01	08	04	07	01	01	記入日	平成30年06月11日
	H29	15	06	00		H29	01	08	04	07	01	01		

1. 事務事業の概要

総合振興計画上の位置づけ			実施計画候補
基本目標	04	緑と潤いのあるまち	○ 対象
分野	01	緑地・緑化	● 対象外
施策	38	潤いのある緑地空間の創造	
事業期間	平成１７年度 ～ 平成３２年度		
根拠法令 通達等		関連計画 施政方針	
事業区分	○ 法定受託事務　○ 自治事務のうち義務的なもの　● 自治事務のうち任意のもの		
対象	街路樹植樹路線を利用する人		
事業目的	街路樹の適切な管理を実施する		
事業内容	街路樹の剪定、各駅環内樹木の剪定・消毒、環境空間緑地・緑道内樹木類の維持管理		
実施主体	□市による単独直営　■委託　（□3ｾｸ･財団　■企業　□市民･NPO）　■協働･協力（　　）		

2. 実施結果

事業の予算・実績			平成２９年度 執行額（千円）	平成３０年度 予算額（千円）	平成３１年度 計画額（千円）	平成３２年度 計画額（千円）	平成３３年度 計画額（千円）
事業内容			街路樹等の適切な管理	街路樹等の適切な管理	街路樹等の適切な管理	街路樹等の適切な管理	街路樹等の適切な管理
事業費			54,719	55,193	60,000	55,000	60,000
財源内訳	国庫支出金		0	0	0	0	0
	県支出金		0	0	0	0	0
	起債		0	0	0	0	0
	その他		0	0	0	0	0
	一般財源		54,719	55,193	60,000	55,000	60,000
人件費			1,862.19	2,000.13	1,793.22	1,793.22	1,793.22
投入人員	常勤職員		0.27 人	0.29 人	0.26 人	0.26 人	0.26 人
	非常勤職員		0.04 人	0.01 人	0.05 人	0.05 人	0.05 人
事業費＋人件費			56,581	57,193	61,793	56,793	61,793

目標達成状況	指標名	単位	説明・算定式	Ｈ２８目標 Ｈ２８実績	Ｈ２９目標 Ｈ２９実績	Ｈ３０目標 Ｈ３０実績
活動①	業務委託件数	件	業務委託契約件数	10	10	10
				10	10	－
活動②						
						－
成果①	業務委託執行率	%	業務委託報告書提出率	100	100	100
				100	100	－
成果②						
						－

目標達成状況の分析	
	Ａ：活動・成果ともに達成した。 ＜判断理由＞ 当該年度は目標を達成することが出来た。

3. 評価結果

施策への貢献度	評価結果			施策の目標達成に向けて貢献しているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：施策の目標達成に貢献している。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 整然と剪定された街路樹や植栽帯等の清掃・除草により、まちの景観が保たれる。また、道路の視認性も向上するため、交通安全や防犯効果にも有効である。
経費水準	評価結果			事業費・人件費の水準は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：経費は適正な範囲である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 樹木の生長時期及び植栽場所から勘案して、隔年剪定を実施しており、副次的に維持管理費の抑制が図れている。
事業手法	評価結果			事業手法は適正か。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：事業手法は適正な内容である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 維持管理業務を民間企業に委託することで、民間のノウハウを活かした適切な選定により、みどりの景観向上と道路空間の安全性が図れている。
受益・負担の公平性	評価結果			受益の公平性と負担の適正化は図られているか。
	２７年度	２８年度	２９年度	Ｂ：受益・負担は適正な範囲である。
	Ｂ	Ｂ	Ｂ	＜判断理由＞ 当該事業により、みどりによる景観向上と道路空間の安全が図れている。

4. 平成２９年度中に実施した見直し内容

見直し内容	本年度に実施した業務委託対象の街路樹は、昨年度の同業務受託者の報告書から樹木の種別・数量を把握したことにより剪定対象数を見直した。
見直しの効果	市道路線毎の街路樹数量の把握が可能になったことから、次年度の業務内容や委託料を見直すなど、ランニングコストの抑制や街路樹管理の精度向上が図れている。

5. 今後の方針

事業の方向性	● １現状で継続　○ ２拡大して継続　○ ３縮小して継続　○ ４他事業と統合　○ ５休止 ○ ６その他見直し　○ 平成３１年度で終了 ○ 平成３０年度で終了 ○ 平成２９年度で終了 ＜判断理由＞ 本事業の実施により、まちの景観向上と道路交通の視認性向上を図り、さらには、防犯にも効果を期待できるため。
今後の取組方針	既存の街路樹は、路線毎の整備時期に設置されたことから、老木となり枯死する傾向があり、みどり公園課だけでは、街路樹の維持管理と街路樹の長寿命化・更新が図れないことから、街路樹を所管する道路河川課と連携して、街路樹の台帳化と共に街路樹の更新・補植を進めていく。